線状降水帯による豪雨災害に伴う上空調査

令和７年８月７日～鹿児島県内において線状降水帯による豪雨災害が発生し、
８月１０日、防災ヘリ「はるかぜ」にて鹿児島県霧島市、姶良市において、
上空からの被災状況調査を実施し、発生メカニズム等の助言を頂いた。

調査実施者：鹿児島大学　地頭薗名誉教授

被災状況

被災状況

鹿児島県との被災箇所共有会議

上空からの実況解説

【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

○崩壊斜面の地質は，下部は国分層群に属する凝灰岩，礫層，軽石層，シルト層等の堆積層，その上位はルーズな安山岩，さらにシラスがのっていた。シルト層は割目が多くて湧水がみられ，崩壊はシルト層で起こり，上位の安山岩とともに崩壊し，崖錐堆積物を侵食しながら流下していた。

○姶良市蒲生町の崩壊斜面も竹林であり，国分層群の地層内の湧水が崩壊に関係し，桜島サービスエリアと同様の発生メカニズムと考えられる。